

「原油高騰で儲かる官僚」なぜ減税じゃない?"
補助金"配布で儲かるカラクリ

藤井：それで、私が聞きたいのは、財務省のエリートで「キャリア」と言われるような人たちは、
どういう原理原則というか、どういうことで行動
しているのですか？

どうも話を聞くと、矢野事務次官にしてからが会計学も財政学も分かっていないと、「東大法学部
を出ているのに、そういう勉強もしていないのかな？」と私は思うのです。

そして民間企業の経営の感覚、バランスシート、
そういう感覚もないということです。

私も留学している時に、若干大蔵省から来ている
人とも付き合いがありましたけれども、「彼らの
行動原理というのは何なのかな、どうもよく分から
ないな」と思っていたのです。

高橋：最終的に言うと、自分の利益の極大化とい
うのが基本になるのですけれど、財務省のファミ
リーの中にいれば、実は死ぬまでほとんど困らな
いですよ。

藤井：そうですね。

高橋：ファミリーの中にいれば、いろいろあてが
ってくれるし、やはり財務省はいろいろな省庁に
影響力があるから、例えば最近だと、辞めた後に
職として結構簡単にもらえるのが、どこかの会社
の社外取締役には結構なれるのです。

そうすると、財務省のファミリーの中にいれば社
外取締役に簡単になって、将来はあまり困らない
ですよ。

そうでなくても天下りもあって、困らないですよ
ね。

そうすると財務省の保守本流のやり方を言うとい
うことです。

それで、財務省が各省庁などにどうして影響力を
及ぼせられるかということ、やはり予算を持っている
、税金を持っているというところにあるわけ
です。

予算を持っている、税金を持っているという時に
、その恩義をどういうふうに感じるかということ、
増税で税金を集めてお金を配った時に一番恩義を
感じるのです。

そうすると、それに恩義を感じて、それが財務省
の権益を一番高めるための1つの手段ですから、
その増税してお金を配るという行為に反すること
は言わないという、それだけです。

そういうふうに言えば、財務省のファミリーの中
でずっと生きていけるのです。

この広くたくさんいる財務省のファミリーの中で
、こういうことを言うのは私しかいないでしょ
う？

藤井：そうですね。

高橋：ですから、財務省のやつがいかに自分たち
の特権を守りたいかというのが分かるではないで
すか。

誰も言わないし、おかしいでしょう？

ですから、みんな「高橋は変なことを言ってるん
だ」と言うのだけれど、私は表立って反論も食ら
ったこともないのです。

私はそれを仕事でしていたから、よく知っている

からです。

ですから、権益を確保するために財務省に都合の悪いことを言わなければ、一応財務省ファミリーでいられて一生困らないということです。

藤井：高橋さん、非常に貴重な、インサイダーな情報のリークで、高橋さんが言ってくれなかったら分からないことがたくさんあります。

高橋：インサイダーといっても、みんなが思っているような感じのことを言っているぐらいです。しかし、私はうそを言っていないし、「いろいろな財政の話で、バランスシートで議論しよう」というのは、私は正々堂々と言っているのです。ただし、矢野次官などは絶対に受けないのです。

私はただ単に「正確な財務情報できちんとした経済政策、財政政策をやる」という、国際標準のことしか言っていない。

国際標準にはそのような天下りの権益とか、そういうものはないから、OECD か何かでいろいろな研究をしても、補助金支出というよりは、実は減税の方が多いです。

減税というのは、財務省からしてみると、集めたお金を配るところを完全に放棄するから、全くダメなのですけれど、経済政策からいったら減税するのと補助金は大差ないのです。

それでも、どちらを選ぶかという圧倒的に補助金です。

補助金と政策支出の比率を見ると、減税と補助金というのを日本でやると、補助金が8とか9で、減税系が1とか2です。海外は減税系が6とか7です。

藤井：補助金だったら集めたものを配るから、民

間側はありがたいと、官僚からすれば恩を売れます。

高橋：しかし補助金は、本当を言うとモニタリングしなくてはいけないから、監視コストもかかったりして政策的にはあまり正しくないのです。

どちらがベースかという、公明正大な減税の方が簡単で、要するに政策効果は分かりやすいのです。

しかし、私などはそういう普通の話をするだけで、それは財務省から見たら「何でそんな恩を売れるチャンスをわざわざ失うんだ。おかしいだろう」という感じです。

しかし、表で議論できるかといったらできないでしょう？

藤井：役人とすれば、そのモニタリングの仕事も含めて、仕事が増えるのは、権限が増えることはいいことだということになるのですね。

高橋：そういうことです。ですから、全然真逆になってしまうわけです。

自分の権限が増えたり、仕事が増えるのは喜ぶかどうか、あと国民の方を見て最小コストをやるかどうかというので、政策が違ってしまいます。

ですからガソリン価格の時に減税しないで補助金を出すのです。

分かりやすいでしょう？こんなに分かりやすいことはないではないですか。

なぜそちらなのかと不思議で仕方ないですけど、それは経産官僚の仕事をつくるという意味で、財務省が経産官僚にも恩を売っているのです。

藤井：財務省も、モニタリングする方の経産省もということですね。

高橋：経産省がモニタリングするから、経産省を
応援しているようなものです。藤井：「両方仕事
が増えるということで結構なことだ」ということ
ですね。

高橋：はい。しかし、普通の国民から見れば、「
何で？」と思います。藤井：「何で？」ですよね

。

高橋：しかし、そうやって考えると、減税しない
ということと、あとモニタリングで経産省に仕事
を与えているというので、公務員全体から見れば
財務省は非常にありがたい存在かもしれません。